

1. 編組竹製品技術資料集発刊事業 「基礎技術編」

菅原弘美・豊田修身
阿部 優・佐藤幸志郎

1. 目的

平成2年は、当所の創立満50周年にあたり、その記念事業として「竹編組技術資料集」を発刊することとした。

これは、当所が永年にわたって積み重ねてきた竹工芸に関する研究成果を分類、整理するとともに、その技術・技法を的確に残し、地場竹産業界に広く伝え、デザイン開発や新商品開発の参考となり、さらに産地の基盤づくりに役立つ。

今まで、固有のものとしてきた伝統技術が、後継者に広く伝わり、地場産地で継承発展していくための手段として、この技術資料集が役立つことを目的とした。

2. 内容

本事業を進めるにあたり、資料集の掲載内容や構成等について調査と計画書を作成。

2.1. 調査・計画

基本編組の選定については、地場企業の生産品目と編組種類の調査を行うとともに、昭和40年代に日本工芸技術協会が出版した竹編組デザイン資料を参考にしながら、基本編組として実践的に活用できる編組を65種類を選定した。

また、唯一の竹工芸に関する技術資料集の図説竹工芸の著者である新潟県の佐藤庄五郎氏に内容と構成についてアドバイスを受け、試作計画書を作成し、地場業界等から選任し

た編集委員との編集会議を開催して、計画書の内容について説明を行った。

協議の結果、「基礎技術編」として、基本編組65種類の実物編組見本板(300mm×300mm)を作製し、資料見本として当所に展示するとともに、それぞれについての解説と全国呼称例の他、パーソナルコンピュータを利用して編組手順とその解説並びに関連する事項について掲載し、内容の濃い使い易い資料集も作製することを決定した。

なお、編集委員の内訳は次のとおり。

地元生産者	5名	アドバイザー	4名
卸売業	2名	別府市職員	1名
デザイナー	1名	大分県職員	2名

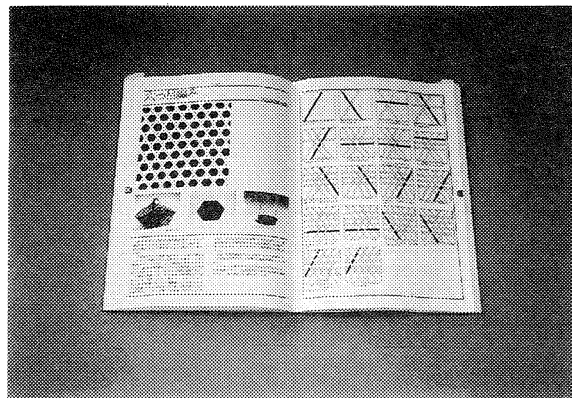


写真1. 資料構成図

2.2. 基本編組板の作製

基本編組の中から選んだ65種類の材料について、幅、厚み、本数並びに色ヒゴの配色、編組板の寸法と収納する枠の形状等について検討を行った。

編組素地は、全種類を400 mm角に編み、5 mm厚の合板に接着した板を300 mm角のアルミ枠にはめ込み吊して使用できるようにした。

なお、編組の中で表と裏が異った模様の編みと、左右の綾で編む編組については、二枚の写真に掲載した。

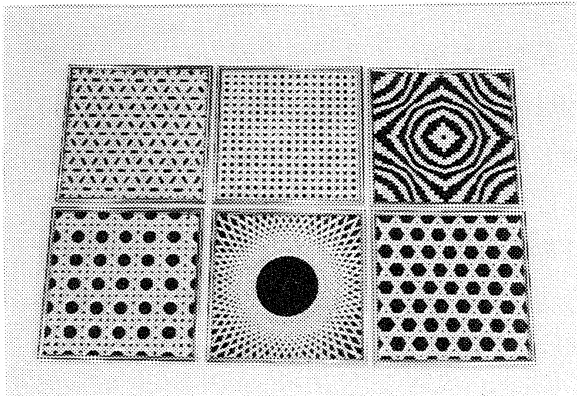


写真2. 基本編組見本板

2.3. 応用作品の選定

基本編組は、平面に編んだ模様を、そのまま立体にした場合、胴部分に平面と同じ模様ができる編組と異なる模様ができる編組がある。

そこで、掲載する作品の選定については、一部立体面の編組模様で種類分けをした。

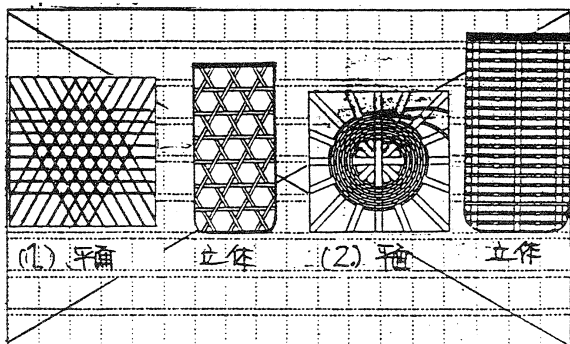


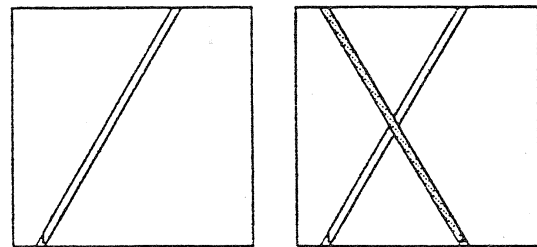
図1. 応用作品例

- (1)は六つ目編みで、底と胴が同じ模様。
- (2)は菊底編みで、底と胴が異なる模様。

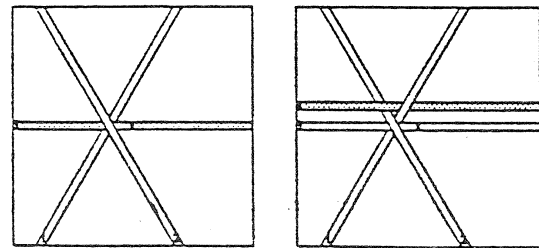
2.4. 編組工程図の作成

編組工程図は、パーソナルコンピュータを使用して全種類を作成。

掲載できる工程数は、最高20工程が限度であり、縦、横の構成である四つ目、ごご目、網代系統では多くても5～6工程あれば理解できるが、六つ目、八つ目系統では、三方向からのヒゴの組み合わせのため、ヒゴの差し込み方とその後のヒゴの交し方など複雑になり少ない工程数では理解しにくいいため、初心者にも編めるように、編みヒゴに番号を入れ、それぞれ工程毎に差し込み方と交し方の解説を加えた。



- 1) 六つ目を組むことを前提に、右斜め上に60°の角度でひごを置く。
- 2) 1を押さえて左斜め上に60°の角度にクロスして重ねる。



- 3) 1と2の間に通して水平に置き、六辺が60°になるように角度を揃える。
- 4) 3と平行に、1をすくい2を押さえる。

図2. 編組工程例(麻の葉崩し)

3. 編組竹製品技術資料集作成の期待される効果。

現在、別府地区で竹産業に従事している人のほかに、県内一円にいろんな形で竹工芸に

携っている個人やグループがある。

以前、その地域に於ては竹細工が盛んであったが、後継者不足や工業製品の進出等により、衰退していき、生産活動がしばらく跡絶えていたが、何とかその技術と製品を復興させ、保存していこうと活動しているグループもある。

また、全国でも唯一の竹工芸指導機関の大分県立別府高等技術専門校では、年間30名が指導を受けながら竹工芸技術者を目指している。その他、個人的に独学で勉強している人もいる状況の中、この資料集の普及効果を図るために、竹産業界を主な対象とするほか、次に別表に挙げている個人またはグループ等の研究資料や自習書としても活用できる。

表1. 効果対象表

項目	対象	用途
デザイン指導	竹産業界・デザイン関係団体	デザイン活動のための竹ガイドブック。新商品開発及び異分野への竹材の導入。
後継者育成	中堅技術者養成	研修資料・自習書
技術教育	高等技術専門学校・社会福祉センター	教科書・自習書
啓蒙	発明教室・カルチャー・スクール	グループや個人が学習を行う場合の教科書・自習書
技術継承	地場竹産業界	竹工技術の向上と新製品の開発、生産技術の確認と向上。新技術の導入、従業員等の指導資料。
生涯教育	生きがい対策(高年大学)学校教育	グループや個人が学習を行う場合の学習書
一村一工芸	地域村興し	各地域における竹関連グループの村興しのための技術指導・自習書
技術指導	別府竹協・別府クラフト	団体指導

4. 結果および考察

今まで竹に関する図書としては、竹の栽培加工や作品集等については市販されているが、竹の編組加工技術について具体的に説明紹介した実践的な技術書は皆無の状況にあり、地場竹産業界での新商品開発や後継者の技術の研鑽、伝承に支障をきたしており、竹編組技術資料集が発刊されることで種々の編組加工技術にチャレンジでき、地場竹産業界の要望に応えることができた。

本年度の基礎技術編では、主に基本的な平面加工の展開であるが、平成3年度では、基礎編での加工技術をその流れにそって展開させ、応用編として平面から立体、縁処理、籐巻き加工の他、関連加工技術等について広範囲な内容で掲載し、基礎から応用へと連携しながら利用できる資料集を作成する。